

# 都市移住と同郷団体の 中日比較

## Zhao Yuting

(北京外国語大学北京日本学研究中心博士課程/KUASU2013年度ERASMUS研究員)



2014年 3月7日(金) 15:00~17:00

京都大学文学部新館5F 社会学共同研究室(L521)  
(参加無料・当日参加歓迎)

要旨:2010年に行われた第6回全国人口センサスの人口移動統計によると、中国は2億6094万人の流動人口を抱えている。その中で、65.3%の流動人口は都市に集中している。この龐大な人口がいかに都市生活に溶け込むかは、政府と都市に移動した個々人の共通の課題である。馴れない都市生活を過ごすためには、政府や企業のサポートはもちろん、同郷ネットワークや同郷団体からのサポートも欠かせないことが考えられる。中国より早く都市化が進行した日本では、都市への人口集中は幾度かの大きな波を経て、すでに沈静化しているが、故郷を離れた人たちは都市へ移動・定住する過程で、同郷団体を結成し、生活面と精神面で助け合いながら、都市生活を生き抜き、都市生活に溶け込んできた。

発展過程の異なる中国と日本を並べて比較するのは無理なところも多い。しかし、あえて比較するのは、中国では日本の歴史を再現しているところが多いからである。人口の地域間移動に関して、現在の中国は日本の高度経済成長期の状況に似ている。本研究は、都市の中の同郷団体に視点をおき、中日における人口の都市への集中する状況を概観した上で、事例を挙げながら、中日における同郷団体の全体的状況、同郷団体が設立された理由、同郷団体の形態、役割及び各自の抱えている問題などを比較し、同郷団体の普遍性と中日両国で表れたそれぞれの特殊性を探りたいと思う。